# 平和への祈り

## 広島市民ら約８万８千人が出演し、原爆が投下された直後の惨状を再現した

自らも被爆した教育学者・長田新が編集した文集「原爆の子～広島の少年少女のうったえ」を日本教員組合が映画化。広島県下の各市町村の住民から映画に必要な戦時中の服装や防毒マスク、鉄カブト等約 4000 点が寄せられ、広島市の中学・高校、父母、教職員一般市民約８万 8000 人が手弁当の協力とエキストラとして参加した。その中には原爆を直接体験したものも少なくなかった。原爆投下直後の圧倒的群衆シーンの迫力は、これらの協力なくしてはありえなかっただろう。

監督の関川秀雄は数百カットに及ぶ撮影を費やして、克明に原爆投下直後の修羅場を再現した。そして被爆者たちのその後の苦しみを描いた。それはひとえに被爆者たちの声でもあった。

投下直後の惨状が克明に描かれている映像は、現在貴重な資料ともなっている。過ちを再び繰り返さないで欲しいという、スタッフ・キャストの平和への熱い思いが胸に迫る。

## 【物語のあらすじ】

原爆投下から７年後の広島。ある高校の英語の授業中、女生徒が倒れる。原爆症だった。生徒たちの胸にあの惨状が甦る。子を助けられぬ父、母たち。女学生も中学生も業火に命を絶たれていく。原爆記念日、人々の長い長い列が原爆記念碑に向かう。

再び戦争を起こさないとの思いを込めて――――

© 独立プロ名画保存会

## 八千代平和事業

昭和62年、平和希求のもと「平和都市宣言」をした八千代市では、平和であることの尊さを永遠に伝えていくため、市民等で構成された「八千代平和事業市民実行委員会」とともに、平和への取り組みを行っています。

◀ 平和祈念碑（昭和 61 年 八千代市市民会館前に建立）